

令和5年度 いのちの授業 事例集（小学校）【国語】

掲載数

45

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小3	国語	戦争と平和	ちいちゃんが一人で行った「かげおくり」の場面では、ちいちゃん的心情を想像しながら「家族」と「ちいちゃん」について様々なことを感じていた。「ちいちゃんのかげおくり」の学習を通して、戦争の恐ろしさや悲惨さ、人の命の大切さについて考えることができた。「ちいちゃんへ伝えたいこと」「あまんきみこさんへ伝えたいこと」を考えていく中で、今ある生活が当たり前ではないことに気付き、よりよく生きたり、友達とのかかわりを大切にしようとしたりする姿が見られた。	
2 川崎市	小5	国語	物語 「たずねびと」	「たずねびと」を通して、戦争や原爆に対して、イメージをもつことができた。また、映像資料を効果的に活用し、戦争の現実を受け止め、これから生きていく自分たちが、亡くなった人のためにも、自分や相手の気持ちを大切にしながら生きていこうと考える姿がみられた。	映像資料「つるのつる」
3 川崎市	小2	国語	「聞いてみよう！ANIMAMALLのじゅういさん」	動物愛護センター（ANIMAMALL）で働く獣医師の方に来ていただき、授業をしていただいた。 子猫の保護や迷子犬の収容、飼主への返還等、動物愛護センターで日常的に行われている業務をスライドで見たり、子猫のぬいぐるみでお世話の体験をしたりしながら、仕事内容や動物との向き合い方について学んだ。 収容された小犬の表情が穏やかになっていく様子を見て、どんなことが動物たちにとって幸せであるかを考えることができた。	講師：動物愛護センター（ANIMAMALL）の職員の方
4 川崎市	小5	国語	たずねびと	戦争を知るものがほとんどいない今。現代に生きる子どもたちが、この教材と向き合うことで、戦争によって命を落とし、生きられなかった人々の思いや願い、今生きていることへの感謝の気持ちなどを、自分と重ねながら読み進めた。3年生で学習した「ちいちゃんのかげおくり」、4年生で学習した「一つの花」では、主人公は当時を生きる少女だったが、この教材では自分と同じ現代を生きる11歳の少女ということもあり、感性や考え方などに大きな共感が生まれた。 言語活動として、自分の考える主題とその根拠をGIGA端末で整理しながら伝え合い、共有することで、より考えを広げていくことができた。戦争で命を落としてしまうことに対して、単純に「かわいそう」という感情では終わらずに、自分たちの未来への使命と責任を大きく実感することができた。	光村図書「国語 銀河」

5	川崎市	小5	国語	「たずねびと」	単元に入る前は、日本が戦争で被害を受けたことは、ほとんどの児童が知っていたが、原爆という兵器で広島にどれだけの被害が出たのかを知っている児童は少なかった。授業を通して、原爆がどれだけ恐ろしいものなのかを知り、被害にあった人の思いや現代を生きる私たちにできることについて話し合った。同じことが二度と繰り返されないように、戦争で多くの命が奪われたことを世界中の人に知ってもらうことが大切だと考える児童もいた。	
6	川崎市	小1	国語	実際の動物とふれあうことを通して、生き物や命への関心を高める。自分の気に入った動物について知らせる文を書く。	川崎市が委託している移動動物園を依頼した。様々な動物に実際に触れてその温かさを感じたり、えさやりをすることを通して、生き物への興味関心が高まり、そこにある命を感じていた。ふれあって気付いた動物の動きや温かさについて着目し、文章にまとめた。	福田牧場 国語「しらせたいな、見せたいな」
7	相模原市	小5	国語	「たずねびと」～命のつながりについて考える～	物語教材「たずねびと」の学習を通して、主人公の心情に迫ると共に、命のつながりをテーマに話し合う授業を行った。本文に出てくる平和記念資料館をはじめとした広島を、インターネットを利用して児童に紹介したことで、戦争の悲惨さについても考えるきっかけとなった。自分の命が受け継がれてきたことやその先へつながっていくことを児童は考えていた。	
8	相模原市	小5	国語	「やなせたかし～アンパンマンの勇気～」	やなせたかしさんが「正義を行い、人を助けようとしたら、自分も傷つくことを覚悟しなければならない」という信念を貫いて生きる姿に触れ、生きることの意義を追い求める高尚さや限りある生命を懸命に生きることの尊さについて学ぶことができた。また、個々に他の伝記を読むことで、その心情をより育むことができた。	
9	横須賀市	小6	国語	「海の命」	「海の命」の学習の中で、海に住んでいる生きものだけが「海の命」ではない。海とのかかわり方を考えながら、主人公の考える海の命について、章中の言葉をもとに考えていった。主人公の父や祖父の生き方、クエとのかかわりなどを通して、どのように生きていくのか考えるきっかけとなった。また、命の大切さを感じる事ができた。	光村図書「海の命」
10	横須賀市	小5	国語	共感共苦	物語の主人公は、子どもたちと同じ歳であり、戦争を知らない世代を生きる少女である。子どもたちは、自分の経験や思いを主人公に重ね、主人公とともに広島を尋ね歩き、原爆が広島にもたらした現実（被害の大きさ、恐ろしさ、悲しさ）を知ることができた。そして、こんな戦争は、二度と起こってはいけないと平和への思いを強く持つことができた。	国語：教科書教材 「たずねびと」
11	横須賀市	小4	国語	防災教育	社会の「自然災害から暮らしを守る」と国語「もしもの時に備えよう」の単元で、日本の震災のリスクや恐ろしさを学び、我が家の防災計画を作成した。 また、その計画をICTツールを使いパンフレットにし、実際におうちの人に渡すことで、家庭での防災意識を高めることができた。	国語「もしもの時に備えよう」 社会「自然災害から暮らしを守る」 神奈川県 関東大震災100年の歴史 動画

12	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	原爆被災地広島を舞台に、偶然同じ名前の主人公と被災者との出会いを通じて、当時の広島の街の凄まじい姿を知り、戦争の悲惨さや命の尊さ、平和とは何かを深く考えることができた。ウクライナやイスラエルでの犠牲者の姿が重なり学びを深めるきっかけともなった。また「ヒロシマのある国で」という曲を鑑賞し歌詞の意味を感じ取り平和について考えを深めた。	
13	湘南三浦	小5	国語	「たずねびと」 原爆の恐ろしさ	物語教材「たずねびと」の学習を進めることで、戦争のおそろしさや平和の尊さについて考えることができた。また、戦争でたくさんの命が失われたことを忘れないでいることが、平和を守ることにつながることを確認した。子どもたちの感想の中にも、命を大切にしたいという記述が多く見られた。	(使用教材) 教科書・ワークシート
14	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	終戦70年以上経っても、未だに戦争で亡くなった人や、亡くなった人に繋がりがある人を探している現実があることを物語を通して知った。また、原爆ドームや原爆資料館の画像を見て、戦後何十年たっても傷つく人々がいることを知り、戦争は二度と起こしてはいけないことだと理解した。	(使用教材) 教科書
15	湘南三浦	小4	国語	戦争の悲惨さ、 家族を思う気持ち、 命の大切さ	「一つの花」の物語を通して、戦争の悲惨さや不条理さ、家族や自分の命や幸せが失われてしまうかもしれないという悲しさや、未来に向けて家族の幸せを願う心情を読み取り、命の大切さについて考え、話し合った。	(使用教材) 光村図書・国語4年 「一つの花」
16	湘南三浦	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	幼い女の子と、その家族による戦争文学を学んだ。どんな気持ちで接してきたのか、文章を読んで感じたことを伝え合った。その中で、家族の絆の深さや命の尊さを改めて考え、深めることができた。	(使用教材) 光村図書・国語3年 「ちいちゃんのかげおくり」
17	湘南三浦	小6	国語	やまなし	宮沢賢治の生き方や考え方について考える活動を通して、生命の尊重、自然との共生について自分の考えを深めた。	(使用教材) 光村図書・国語6年 「やまなし」
18	湘南三浦	小4	国語	命の尊さ・平和	物語教材の「一つの花」を、学習する中で、太平洋戦争について学び、この時代に生きたある家族の物語を通して、命の尊さ、平和の大切さについて考えを深めた。	(使用教材) 光村図書・国語4年 「一つの花」
19	湘南三浦	小3	国語	戦争と平和 「ちいちゃんのかげおくり」	国語科で、戦争の悲惨さや苦しさ、辛さなどについて学び、当時の人々の気持ちを考えながら感想文を書いた。子どもたちは一つしかない命の大切さや、命を奪う戦争の悲しさを話し合ったり、ワークシートに記入したりした。平和な世の中で生活できることのありがたさについて、記述する児童もいた。	(使用教材) 光村図書・国語3年 「ちいちゃんのかげおくり」

20	湘南三浦	小4	国語	物語文 「プラタナスの木」	児童と同じ年齢の登場人物たちが、誰と出会い、どのように心が変化していったのかについて考える授業を行った。この教材はファンタジー要素があるので、おじいさんが何者なのかについて児童たちは「木の妖精」、「プラタナスの木そのもの」など様々な想像をして意欲的に取り組んでいた。主人公の子どもたちの心が変化していくのと同じように、児童もプラタナスの木に対してや物語が何を伝えてくれているのかについて、友だちと考えを共有しながら学習を進めた。木は根に支えられ、私たちは木や自然に支えられていること、自然の恐ろしさや偉大さ、命の強さについて考えを深めることができた。	(使用教材) 光村図書・国語4年 「プラタナスの木」
21	湘南三浦	小5	国語	生命尊重 戦争と平和	主人公「綾」の心情の変化を読み取る中で、戦争の恐ろしさや命の大切さについて考えることができた。児童にとって戦争は身近なものではなかったが、タブレットで戦争に関わる内容を調べたり、登場人物の思いを自分と重ねたりしながら物語を読み進めることで、多くの人が亡くなった原爆による被害の大きさや怖さを実感した。それにより、命の重さを感じ、現在を生きる自分たちが自分の命とどう向き合うかを考えるきっかけとなった。	(使用教材) 光村図書・国語5年 「たずねびと」
22	湘南三浦	小6	国語	自然・生命	森の動植物の共生の実態を知り、古い命が新しい命の源となって森の生命が受け継がれていくことを読み取った。	
23	湘南三浦	小3	国語	戦争教育 「ちいちゃんのかげおくり」	児童にとっては年齢の近い女の子である主人公を通して、自分たちとは遠くかけ離れた過去の出来事である「戦争」と当たり前と思っている家族との生活、命、未来などの「平和」について想像し、命の尊さや平和な日常のありがたさについて考えた。	(使用教材) 教科書
24	湘南三浦	小4	国語	「平和教育」 一つの花	当時の社会状況について、理解しやすいように、図書室で資料を探したり、タブレットを使用したりして、総合の時間も活用しながら授業を行った。最初は文章の中での様子がイメージできない児童もいたが、戦争に出かけるときには周囲で万歳をしながら見送ったこと、戦地に向かってから、故郷に帰ってこられる人は少なかったこと、などを少しずつ理解することができた。戦争に行く人の気持ちはどうだったのか、という問いではたくさんの意見が出て、話し合いが深まった。どの子どもも平和な暮らしの大切さについて考えることができた。	(使用教材) 光村図書・国語4年 「一つの花」
25	湘南三浦	小4	国語	物語文 「一つの花」	戦時中の食物や物資等の不足している様子を学び、子どもを思う親の心情に触れた。そこから現在の平和についても考えを広げ、物語について感想にまとめた。	

26	湘南三浦	小5	国語	たずねびととやなせたかし	戦争は自分たちが正しいと主張して始まる。そこに本当の正義はない。広島原爆がうばった幼い子どもたちの日常。教科書には載っていない戦争の悲惨さも少し交えながら、平和に暮らしていることの大切さ、思いをつないでいくことの大切さを話し合った。	
27	湘南三浦	小3	国語	ちいちゃんのかげおくり	児童が初めて戦争に触れる教材だった。物語を読んだ際、主人公のちいちゃんが最終的に亡くなってしまふ事実から、命の大切さ、家族と離れる悲しみを感じる児童が多かった。また、防空壕がどんな場所なのか、ちいちゃんが食べた干し飯とはどんなものなのかなど、写真を見ながら確認したり、戦争の恐ろしさを学んだりする中で、衝撃を受けた児童も多かった。 授業の最後に物語を読んで考えたことを伝え合う場面では、自分や大切な人の命を大切にすること、戦争を繰り返してはいけないことなどを伝え合う姿が見られた。	(使用教材) 光村図書・国語3年 「ちいちゃんのかげおくり」
28	湘南三浦	小4	国語	一つの花	国語「一つの花」の物語の学習を通して、戦争当時に生きる人々の生活と今の自分たちの生活とを比べたり、登場人物の思いに自分の思いを寄り添わせたりしながら題材についての理解を深めていくことで、改めて戦争の悲惨さや命の大切さを学んだ。	国語教科書
29	湘南三浦	小2	国語	物語を通して動物の生命の尊重に気づかせる	国語の物語教材から、主人公(少年)と飼い馬との交流の様子を読み取り、動物に対する愛情を深めるとともに、自分が飼っている動物などに対しても誠意を持って飼育できるよう、いのちの大切さを学んだ。	スーホの白い馬 (光村図書出版)
30	湘南三浦	小2	国語	動物園の獣医さん	動物の命と日々向き合っている獣医師の話のうちが、命の大切さを学んだ。具体的には、「犬や猫を中心とした動物の能力や人間との関わりについて」「病気との向き合い方、予防接種や飼い方、治療について」「人間により動物が生きづらくなっている現実や、動物園の役わりについて」など、動物と関わる時に大事にしなければならないことについて考えた。	講師は、小動物飼育アドバイザーの事業でご紹介いただいた獣医師 映像を用いて、より具体的にお話していただいた
31	湘南三浦	小2	国語	どうぶつえんのじゅうい	国語「どうぶつえんのじゅうい」の学習と繋がりを持たせながら、獣医さんの実体験について、話を聞いた。 動物(主に牛や馬)のお産のサポートをした話を聞いたり、生きものの生まれる瞬間の動画を見たりし、児童が生命の尊さを感じていた。また、自分の将来の夢に繋げながら話を聞いたり、質問をしたりする児童も多くおり、学び多い時間になった。	

32	湘南三浦	小4	国語	命の尊さ	戦争が激しい時代、食料不足で主人公のゆみ子におなかいっぱい食べさせられない両親が、食べ物を与えるときに「一つだけね」と言い聞かせていたという背景の中、出征した父が帰ってこなかったという物語を通して、命の大切さ、食事をする事の尊さを学んだ。	国語 光村図書 「一つの花」
33	湘南三浦	小2	国語	どうぶつ園のじゅうい	「どうぶつ園のじゅうい」の教材の理解を深めるため、獣医さんの一日の仕事の内容や大変さを知り、体感した。獣医さんへ質疑応答を通し、理解を深めるとともに、いのちの大切さに気付くことができた。	茅ヶ崎市小動物アドバイザー
34	湘南三浦	小5	国語	物語の全体像をとらえ、自分の考えをまとめる(戦争題材)	【たずねびと】 「綾」と自分とを重ね、「綾」とともに「ヒロシマ」に起こった悲劇と向き合いながら物語を読み進めた。講師を招き、画像や動画の紹介をしていただいたり絵本の読み聞かせをしていただくことで、戦争についての理解や、命の尊さ、これからどう生きていくのかを一人ひとりが考えた。	
35	湘南三浦	小5	国語	たずねびと	広島原爆被害にもとづいた物語教材である。登場人物の心情を想像し、話し合いを進めていく中で、児童たちは戦争の悲惨さや原爆の怖さ、平和の尊さを学習した。	広島平和記念資料館HP 広島原爆死没者追悼平和祈念館HP
36	県央	小3	国語	「ちいちゃんのかげおくり」	国語単元「ちいちゃんのかげおくり」を読み、物語の背景や主人公の心情を理解する学習をした。家族で遊んだ「かげおくり」と、ちいちゃん一人の「かげおくり」を比較し、不条理な死・残された者の悲しみについて理解を深めた。さらに、この物語は「色」がよく出てくる。そこで色に着目し、家族の団欒、戦争の恐ろしさ等を、感覚的に捉えられるようにした。児童は、戦争の恐ろしさとともに、自分の命も他人の命も大切にしようと思えることができた。	教材「ちいちゃんのかげおくり」
37	県央	小6	国語	海の命	主人公を取り巻く人の死や、動物の生と死について深く考えた。生物の大小関係なく、生命や生命のつながりを大切にしようとする気持を持たせるようにした。	
38	県央	小6	国語	生命 「森へ」 「やまなし」	星野道夫の視点を介して見る「森」の姿や、宮沢賢治の「イーハトーヴ」という空想上の理想郷での物語からメッセージを読み取り、話し合うことで一人ひとりが食物連鎖や命のつながりについて考えをもつことができた。	

39	県央	小2	国語	「スーホの 白い馬」	国語の物語文。モンゴルに住むスーホが白馬と出会い、共に育っていく。そこで身を挺してオオカミからひつじを守っている姿から、白馬の勇敢さやスーホへの感謝の気持ちが伝わる。最期は体中に矢が刺さる中で歯を食いしばりながらスーホの元へと帰る場面から、白馬のスーホへの深い愛情が伝わる。児童は、物語の最後の悲劇から他者への愛情、通い合う心の尊さを考える機会となった。	14時間 こくご 二下 光村図書
40	中	小3	国語	「人権教育」 共に生きる	パラリンピックについて調べて、障がいとはなにかについて考えた。児童の中には、「手や足がない人。」「けがをして思うように体が動かせない人。」という答えが多かった。その答えに対して、見た目は変わらなくても心や、脳に障がいがある人もいるということ、パラリンピックは障がいのある人だけではなく、すべての人が楽しめる大会を目指していることなどを児童は学んだ。そして神奈川憲章にも書かれている「共に生きる」の文字について動画を見て学んだ。	国語教科書3年下巻 「パラリンピックが 目指すもの」
41	中	小4	国語	ひとつだけの命	「戦地へ赴く父親から『ひとつだけちょうだい』と言って一輪の花をもらおう」この場面から「ひとつだけ」ってなんだろうと意見を出し合い、いのちの大切さや尊さを考えた。後に父親からもらったコスモスが増えているのは、いのちを大切に受け継いでいるからだといった意見も出た。	国語教科書『新しい国 語4上』東京書籍 「一つの花」
42	中	小6	国語	戦争や平和について書かれた作品を読み、それらに関連付けて自分の考えを深めることができる。	「戦争の悲惨さ」、「産みの母親との別れの悲しさ」、「『わたし』やヒロ子の育ての母の変容」、「ヒロ子のたくましい成長」、「心に残る表現」などに着目し、一人ひとりが自分の言葉で語り合い、聴き合うことを通して、思考を深められるように促し、共に学び合うことの価値を実感し、命の大切さに気付くことができた。	授業者 学級担任 教材 東京書籍 「ヒロシマのうた」
43	県西	小5	国語	たずねびと	戦争や原爆についての知識をもち、内容を読み深めていくとともに、自身の命の大切さについて改めて考えていく形で授業を行った。初めて知ることたくさんあり、今の生活とはかけ離れた生活に驚くとともに、受け継がれた平和を大切にしたい気持ちや、命の大切さについて考え直す良い機会になった。	国語（光村図書）
44	県西	小3	国語	生命の大切さ	教材文「ヌチヌグスーシ」を読み、沖縄の島で賑やかに「ありがとう」とご先祖様のお墓参りをする様子に驚いたり、命をくれた人たちの存在に気付いたりする主人公の思いについて考えた。大勢のご先祖様たちがいなければ今の自分の命がないことの不思議さ、命の重みについて気付くことができた。	東京書籍 新しいどう とく3年 「ヌチヌグスーシ（い のちのまつり）」

45 県西	小1	国語	いのちを見つめて	<p>単元の始めに「寿命について」の話をした。犬と人間の寿命の違いについて考え、一緒に大きくなった犬が「ずっと早く大きくなる」ことについて考えると「先に死ぬってことかな」「かなしい」などの意見が出た。そこから、人間も犬も寿命があり、限られた寿命の中でできることは何かを話し合った。話し合いが深まる中で、「毎日楽しく生きることも命を大切にしていることだ。」という結論になり、「今できることを精一杯したい。」という意見が出た。</p>	<p>光村図書 1年下 「ずうっと、ずっと、大 すきだよ」</p>
-------	----	----	----------	---	---